

奥天井より祖母障子尾根を望む

いが量つ広の ークだ。 石山 の人 ないようにしているハンドル捌きを見ながら、名)集合して左岸を少し上がって、すぐに右の 橋も 0 程眠懷 を 入り歩き始めた。今日は天気が良く日焼けを心配して L て た。 に誰 ŋ 行くことになり一安心だが、 座かがか五 『人影の無い山』である。 安 つが 目 持って記念撮影をした。 の踏み後を辿りながら、枯れ葉を踏んで歩く 架かり 浅く短くて車が か 皆大喜び。 だけあって大きな岩がある。それを巻いたりして更に登ると第 部氏が木に鉈目を入れたり、 2 b 1のて見えるだけである。日口設置の後があった。日 たら、 立派に枝打ちした杉があるその下の かり が持ってきて立てた標識もない いやらちょっと緊張して三年ぶりに 少し下ってまた戻し、 六日サ 遊べるように整備されて ま 人の後 反対 せん。トイレに行こうと小竹さんとダムの 側に立派なトイレ を辿 動き出すと、 六時発。 て、 る。下りは、さっき登った道だ。展望はほとんど利かず樹間かく機識もないので、地図の裏に 計 蛇が出て来そうな・・ 画 久 道 山頂に九時三〇到着。 枝を切ったりしてく うとうとしていて香下 を見ながら、石山の登山口に八時に到、すぐに右の細い道に入り、車腹を当ていた。ここでしばらく待って全員(レが見えるではないか!ダムの中央に しぶり カコ 書には三等となって は、 どう 0 あまり お顔 私 から 日の日 ٤ 行が が、 初め ないような道 踏みあとのな かれ まさに今年のテー い VI T 追だった いらは がらは がらは なり急 たが、 右岸の たが二等三角 ダムまでどんな まった。 0 峠に お 顔に会っ の中央には か新し緑 上に な登 着き右 草叢に 2 を 木い 昨夜 歩 立道 らと思 を当 の航書 -9 5 を 山空いて だ。 の分到中け着 た。 点 0 0 行 は

マピ

が

前

T

もくじ 石山・米神山へ 奥天井、巣石山を歩く 2 岐阜支部30周年記念 式典・山行に参加して 3 後立山縦走記② 4 四姑娘山トレッキング④ 4 私の無名山ガイドブック⑩ 5 木本惇さんを偲んで 6 お知らせ 7 7 後記

っ行 睡 (五月月例登山

報

告



(石山山頂にて)

〇時五十四分。 論(?)しながら、登山口着一 そんなことはないはず、とか激 としたら糞詰まりを起こすでし をしてくれたからだろう。実生 ょう・・・いいや大きい鳥なら 鳥が運んできたのか、そんなこ がこんなところに植えたのか、 の柿の木が何本もあるのは誰か く積もっていてブレーキの役目 感じなかったのは、落ち葉が深 時に思ったほど急には

熊・京石・徳瀬の三カ所がある 空いたし暑いし「ひぇー!」と 七五m)へ。三角形の姿の美し になり、 いう感じ。この山への登山口は い山だが、かなり急で、お腹も もうひと山行こうと言うこと 京石コースはものすごい 目指す山は米神山(四

ながら温泉で汗を流し、サニー

散後私達は別府で日の光を浴び

登山口到着一四時三〇分。解

いと心地よい疲労感があるもの 例山行はブランクの大きさの思 着一七時三五分。久しぶりの月

スを取ることとなった。 プということで、今回 熊

くの小学校の遠足コースだろう ぼ』が何本も下がっていた。近 った。しかしこれから先は『ひ と「霊岩・霊水」とある。道が 置されているのだろう。 で、こんなに多くのロープが設 か。かなりかなり急な登りなの 整備されているのはここまでだ 陰でうれしい。しばらく行く 休憩をした。このコースも木の なった。階段の途中でおにぎり に入ると、しっかりした階段に 草刈りをしてくれたばかりの道 お墓の前を拝借して車を置き

て、 り転落した。ケガは無かったが、 ぱり私には三年のブランクがあ 皆さんにご心配をかけてしまっ いただいて往路を下った。やっ それらのご馳走を楽しまさせて おかずはすごかった。しばらく 小竹さんのたくさんのお握りと 弁当を広げた。遠江さんの素麺 た。誂えたような木陰もありお 展望の利くすばらしい眺めだっ のだから。大きな悲鳴が上がっ 蛇が嫌いな人に限って目に付く った。山頂一二時四七分到着。 た。追われるようにどんどん登 とうとういた。いやなヤツが 申し訳ありませんでした。

1 一日だった。 まる人たちはすばらしいと思う の、やっぱり山はいい。会に集

参加 児玉、 者 阿部、安部、 佐藤(秀)、 飯田、 遠江、 小



(958,(455m)8m

を歩く (緒方町)

(六月月例山行報告)

渡 部 昭

り下滞追に六時三〇分到着する。 宇目小国広城林道の奥嶽橋を渡 川小学校前)を通り、 犬飼~三重~緒方~小原(長谷 三台の車に分乗してサニー出発。 古郷、緒方の山は大抵知ってる との思いで、参加しました。 は何がなんでも参加しなければ つもりでしたが、とにかく今回 どこにある山かなと思いました。 プスで聞いたような山名だが、 んな山があったのかあ、北アル 天井との通知を頂き、 六月二三日 (日) 早朝五時に 六月の月例山 行が緒方 少し先の 緒方にそ の町の奥

> 五分登山口に到着。 がら狭い車道を進み、下滞迫の と合流する。奥嶽橋から右に入 登山口まで約三、二km、六時四 奥嶽橋で緒方から参加した渡部 右下にまばらな人家を見な

肩に車を止め、七時出発。 いる。広い空き地が無いため路 われ舗装された林道が上がって 渡せる。少し手前の左は草に覆 が拓けて、上畑・尾平方面が見 り難い。登山口の少し先は田畑 登山口には目印が全く無く判

> 例の「万歳三唱」をし、これも れていない。西さんの音頭で恒

恒例の記念撮影をする。

杉林に変わってくる。 く。しばらく進むとクヌギ林が の中を尾根をめざして登って行 けられた橋を渡り、クヌギの林 くしていると言う飯田さん、無 論この山も経験済み。水路に架 先頭は九州の山は全て登り尽

村落、 つ岩峰を見て、左の岩のステッ ラバースして、落石に注意しな 往路は尾根筋の急斜面を登り がら慎重に登る。 らかなり急斜面の登りとなる。 して下る)尾根から少し右にト て広い平坦地に着くと、これか 尾平方面が見え隠れする。やが 木々の間から左は緒方と清川の 印がありコースが確認できる。 い。所々に古い赤いテープの目 ははっきりしないが、歩きやす やカシの照葉樹林帯で、登山道 (復路は右に大きくトラバース 尾根に上がると尾根筋は赤松 右に奥嶽川の上流上畑・ 前方に切り立

万五千の地形図には山名が書 のかなあ、国土地理院の一/二 いる。奥天井は日向山とも言う 九五八、九m』の標識が立って 三等三角点には朽ちた 上に一〇時三〇分に到着す 『日向 カン

する。 ひたすら下り一時三〇分に下 ŋ する。ここから三〇分ほどの下 だったところで少し早い昼食に しながら下る。あとは尾根筋 一一時下山開始。頂上を少しく 上奥天井へのコースを断念し、 全景が見えずに残念であった。 傾には頂上付近には雲がかかり、 縦走コースが一望できる。 古祖母·本谷· になっており、前障子から祖母、 悪いが、右前方に少し行くと崖 は浮き石が多く、落石に注意 山頂は樹林の中で見晴らし 傾山・三坊主の 祖母

ことになった。 た『巣石山 (455.5m)』に登る 生時代、学校のすぐ近くにあっ うと言うことになり、私の小学 り、暑くなく楽しい山だと思う。 の木陰を歩くので見晴らしもあ 自然がいっぱいで晴天でも稜線 こっぽり高い山がそれである。 から傾山方面を見て稜線の右に 尾を結ぶ線上にあり、緒方平野 奥天井は傾山・三坊主・三つ 時間があるのでもう一山登ろ

に二kmほど進み、 緒方の冬原部落から竹田 巢石山公園入 方面

プを超え、なだらかな斜面を進

沿うよう樹林で覆われた頂

覚で木野の原から入り遠回りを 口に着くのであったが、昔の感 した上、登山口を間違え、皆さ に余分な運動をしてもらった。 のバス停から右に一kmで登山

(奥天山頂にて)

からは三六〇度の展望で、 皆でお弁当を広げ、 上には植林の作業小屋が建ち、 をする。昔昔、五十数年前に学 等三角点があり「巣石山万歳」 と」といった感じがあった。三 れ「夏草や強兵どもが夢のあ 碑が建っているが、カヤに覆わ はかなり広く、巣石山公園の石 分ほどで頂上に到着する。頂上 ボールなどして遊んだ。 の遠足で登った記憶では、頂 はしっかり付いており、 があるが草が茂り判り難い。 に向かって右側に登山 相撲やドッ -+

> 三時のおやつを食べ下山し、登山三三二、三m」も良く見えた。 山口で解散する。 三時のおやつを食べ下山し、 り、七月月例山行予定の「倉木 進っているが、南側は開けてお 当時植林した杉が成長し視界を きた」のが夢のようであった。 蘇山を望み、東には遠く由布山 鶴見、高崎山まで見ることがで に崇高な祖 西には赤陽染むる大阿 北に雄大な久

付録の「巣石山」では遠く五十山での楽しい山行となり、また、 同後者の皆さんに多謝 -前の思い出を辿ることができ、 今回の山行は故郷の初めての

石川、 参加者 土居、 阿部、 西、 安部、 堀越、 飯田、 渡部



E . 加してない。 $\overline{\circ}$ 周 年 山記 对

長 野 珪 子

そうだと二つ返事で決めた。 岐阜の山のお誘いを受け、面 ったサニーで、 五 ちょっと通りす 月一〇日、 名古屋行きの夜 思いがけなくも がりに立ち寄 白

阿部さんと私の三名。

の通風口の匠の技、きれいな和 がら見て回ったが、印象深かっ のいくつもの室を右往左往しな 風庭園。 人はタマランやろな!) と御蔵 たのは吟味所(拷問室、無実の 門前には朝市が並ぶ。陣屋の中 した。まず、 ルに荷を置いて高山市内を散策 までに余裕があったので、ホテ 翌日、JRに乗り継いで着 は天領だった所。 陣屋を見学。この 受付

力強さだった。最後は、これ ったおしゃべりが止んだほどのあったが、それまでにぎやかだ 開きは済んだ。アトラクション なり『天恩』という酒の樽も鏡 ときっちりと予定時間通りに進 . 式典もめでたく始まり、表彰式 造り酒屋へ。土産にするお酒を 屋がいくつもあったので、ここ いう、支部長さんの歌が出てお でなけりや終わりにならないと の一つに女性だけの陣屋太鼓が んだ後、会場を移して祝賀会と 選ぶので試飲をしていたAさん。 古い町並み通りにも足を伸ばし に飛び込んだのは失敗だった。 が、ほかにもおいしそうなソバ のソバを出す食堂に飛び込んだ 早めの就寝。 きとなり明日 講演会(前会長斎藤惇生氏) さて、高山グリーンホテルで お腹が空いてきたので陣屋前 の川上岳に備え

ところで行く前から天気予報

因に、 村のツメタ谷に沿った林道を営 飛騨の名山。高山市から南に宮 となり、本当に恵まれた良い天 所のゲートを抜け登りつめて 林署の特別許可を受けて、二カ 九m。一等三角点。位山三山 気となり、 は二日間とも 一つで日本二百名山に選ばれた 人の人と一緒に山頂をめざした。 (ここまでホテルから1時間) 川上岳は標高一六二五、 岐阜に入るや、 私たち三人は全国百 雨予報が出されて 晴予報

高山植物はカワイイ! 枚葉のツクバネソウの名前が分 ウバカマなどが咲いていた。四 イチゲ、イワナシ、ショウジョ った白山が美しい姿を見せてい なった。途中、後方に雪をまと 初から急な登だったため渋滞と けられていて、登っていく。最 そこから山道に入る。 からずに教えてもらったりした。 て感激もひとしお。花は、ヒメ 百人が約十人のグループに分

作ってくれておいしかったので 筍を取 シタバなどもあった。たくさん にしてくれた。ウド、 を岐阜支部の人が山頂で天ぷら までの道中、スズコという細い 繰り返して頂上に着いた。稜線 道で、二度ほど緩い上り下りを 雄姿が目に入った。これも雪が 残っている。稜線はクマザサの で稜線に出ると前方に御岳山の 登り初めて一時間十分ぐらい 私もまねして取った。これ りながら登る人がいたの タラ、ア

> ことができた。アッ、ここで名 ろしく、 べたことを付け加える。 古屋駅で三人ともキシメンを 合い、名古屋の夜行バスに乗る たい私達3人はカラスの行水よ ルの温泉できれいになって帰り 出発が遅くなってしまい、ホテ が揃わないためにずいぶん車 下山した。景色を楽しみながら で分かれ、私たち残りは往路を らいは位山への縦走と言うこと は下山することになり、十名く りしてこれは私の記念となった。 いてお話できたり写真を写した いときだった。小倉薫子さん 合わせて歌う人たちもいて楽 ったが、白山や御岳は美し ルプスには雲が 阜の方、ごちそうさまでした。 漬けだけだったので・・・。 お弁当はおにぎり二こと赤カブ 一時間二十分位で降りたが人数 『女性登山教室』などの著者も 楽しかった山頂も1時間後に 撮る人、中にはフルートの おしゃべりや、写真に写る 無事JR高山線に間に 望は三六〇度。北ア かかって残念だ か 0

ŋ ましい私達でしたがお世話にな でとうございます。そしてかし 最後になりましたが、 の皆さん、創立三〇周年おめ りがとうございました。 岐阜支

私 の四 周 ·行 ④

白馬 (その二) 爺ケ岳 五竜

村 豊 寬

進む。ガケを通る時、台風のよ する。カメラを取り出す間もな 遥かかなた雲間に富士山を目に 膝に一段と力を入れ、一歩一歩 とお互い声を掛け合いながら両 うな突風に、飛ばされないよう ばされそうになりながら黙々と 中を五竜山荘出発。風雨強く飛 く、一瞬の内に雲の中に消えて 登る。フト前方を見上げると、 「背を低くし、気を付けてよ」 三日目も予定通り3:30、雨の

出発する。 何も見えず、記念撮影し、すぐ (二,八一四m) に立つ。 周りは 5:10風雨の中、 五竜岳山頂

安が一杯で、とにかくリーダー 登山道は岩を巻くように下へ下 確保しゆっくりと登る。やがて の木本さんの指示どおり、三点 しどうやってあれを登るのか不 験で、前方の切立つ岩肌を目に、 へ、谷底へ吸い込まれて行くよ こんな風雨の中の登山は初体

> 筋が冷たくなる。 うで、一人だったらと思うと背

も単独行が殆どとの事で、歩き 事にする。昨日からの話を総合 う感じ。彼女とは後日メル友の っぷりを見ても、さもあらんとい 終りには北海道の山とか、それ 年祖母、久住山に登り、八月の 百名山完登まであと二〇座、昨 すると、船橋在住のOLで日本 どを聞き、写真を送ってあげる 前に、後になって一人で登って いる。これも山歩きの楽しみの 一人となり、山の情報交換をして いる若い女性(山を割引しても 美人)と又一緒になる。住所な 小休止していると、昨日から

リーダーの「サァー行くぞー」 の声で、身支度を整え直し、本 なぁーーー」との思いも、木本 から鹿島槍北峰へ。 日の最大の難所、八峰キレット の小屋で泊まるパーティもあり、 激しくなるばかりで、中にはこ 「ここで泊まったら良いだろう 10:30、キレット小屋へ。雨は

り、マークもしっかりついてい 黙々と食べる。これから先はた 力の補給のためと、何も考えず 昼食は崖の途中で立ったまま、 晴れると切立った岸壁が現れる。 るので迷う事はない。霧が少し ースは梯子や鎖が設置されてお らゆっくり、ゆっくり登る。コ だ気力のみで登って行く。 もう一度三点確保を確認しなが 雨の中、岩場岩場の連続で、

> 思った。 縦走登山者は案外少ないなーと 我々を追い越して行った人は三 る人は殆どいなくなった。今日 する。我々より遅れて登ってく 何も見えないが、しばらく休息 〇~四〇人程度で、白馬からの 二m)に到着。霧と雨の中、当然 13:45、鹿島槍北峰(二,八四

頂を見ることが出来た。 の登山姿を目にし、冷池山荘近 良く見るとザックなしや軽装で ってくる十人前後のパーティー 視界は依然悪い。南前方から登 振り返れば端正な姿の鹿島槍山 布引山を過ぎる頃は霧も晴れ、 も山荘は見えず、ひたすら下る。 しを覚えるが、下れども下れど 頂上に立つ。雨は止んできたが、 鹿島槍南方峰 (二,八八九m)の 15:30、今回の山行メインの山

を堪能する。 改めて北アルプス山々の雄大さ 右前方には立山連峰も見え、

ごった返している。途中で追い ターを切ったことか、もう一度 ば鹿島槍が・・・、何度シャッ り。前方には爺ヶ岳、振り返れ 最終日にふさわしく天気晴朗な えてくれ、疲れは吹っ飛んだ。 でも単独行の船橋の美女が出迎 越して行った人達もおり、ここ 事しきりである。 この好天であの鹿島槍へと思う 四日目は5:10に冷池山荘出発、 16:50、冷池山荘は沢山の人で

六〇度の大パノラマ、前方に針 爺ヶ岳 (二六七〇m) 山頂も三

かなと思った。 者も散見され、気安く登れる山 える。この辺りでは軽装の登山 の木大雪渓を抱く針の木岳も見

るが、縦走路に別れを告げ、扇 この先、針の木岳へと続いてい 黒部川渓谷の遥か彼方に浮かぶ ダムに立寄る。黒四ダム湖で、 は穂高温泉を予約(予備日)し 山行は予定通り上がり。泊まり 雪渓が疲れを癒してくれる。 から見え隠れする、針の木の大 沢へと下る。単調で行けども行 こまで歩いて来たんだ」との実 白馬岳を目にし、「あれからこ ており、時間の余裕もあり黒四 けども下りの連続も、



に大喜びである。

(そのVI

藤

セ "

感で胸を熱くした。 8:30、種池山荘着。縦走路 12:40、 終点扇沢着、今回の 木々の間

> いよいよBCより四. £

似ているが葉が違うとか賑やか はトロリウス・ファレリとある。 る。黄色系はキンポウゲ、本に む。灌木を抜けると草原が広が な物のみ持ち、寝袋等は馬に頼 にした。水と食糧、雨具と必要 が重いカメラはおいて行くこと り、良く眠ったので歩けそうだ も下がり気分も良し、食欲もあ 米のACへ移動する。 初めてだよー」天からの贈り物 重の輪が出来ている。「ワアー 声に天を仰げば太陽の回りに二 で楽しい山旅である。 キンバイに似た花、トラノオに 「日輪ですよー」Nリーダーの 昨夜の熱

のはヤクのしわざである。 食べているなんて羨ましいよ。 こんな花畑の中でのんびり草を ら群がいてこちらを眺めている。 プリムラの芯だけになっている ニ?」の連続。草原から岩が多 「アレナーニ?」「コレナー ヤクの糞が生々しいと思った

青空の下目指す大姑娘山がべる昼食は美味しい。~~=サンにせせらぎが現れ、メコノプシにせせらぎが現れ、メコノプシになせらぎが現れ、メコノプシ

り出来ていて、ごニーレンートーキャンプでは仮設トイレがも近くなる

品のオンパレードに大喜び。 中に花茎のない花を六~八咲か りの中に白やピンクの花を咲か 図鑑に和名がない。丸々のみど ゆれている。小さな小さな白い ねて「青いケシ」探しに出発! 準備を終えてから高所順応をか 組のテント泊、シュラフを広げ せる、キク科プラディミリア・ みどりがマリのよう。広い葉の せる、アンドロサケ・テラバイ ティラ・コリアンドフオリア、 花、ギジムシロの仲間、ポテン ・カルディアナ、色っぽく風に るよりずっと艶やかなプリムラ 小さくて可愛い。街の花屋で見 うなコスダリス・カメリアナ、 が旗めいている。今夜は三人一 ソウリエイ、薬草、健胃剤。珍 「咲いてますよー」「走らない 「フィルムがなくなったー」 空の色をそのま、花にしたよ 出来ていて、ビニールシート

幻の花に逢い見て眠るらむまの花に逢い見て眠るらむまれる

幻の花に逢い見て眠るらむ

1) 天気快晴 七月一五日(日曜日)(八日

テントが煽られ眠れない事が あるが、昨夜はそれもなく目覚 あるが、昨夜はそれもなく目覚 めたのが四時一五分。慌てて二 に片づけようとするが息が上が に片づけようとするが息が上が のたのが四時一五分。 にかでしてこ かたのが四時一五分。 でて二

明るくなり、振り返るともうコルの手前の岩場で待つ、全を側の岩壁が恐ろしい程近くに追っていた。右手には目指す大姑娘山が黒く岩の塊のように見対なヤッケが小さく動くのが見える。「ヤッホー」「ヤッホー」と返って来た。

子。」しかとこの目で確かめた。

降るほどに四千三百星近し

員揃ったところで「慌てないで

「の端に一番星の瞬けり

も鮮やかにゆれていた。美しい、

可愛い、幻の花「青い芥

ブルーをひらき、花芯の黄いろ

それは岩影にひっそりと幻の

でゆっくり、ゆっくり」

行きましょー」とリーダー。岩をいくつか乗り越えてーポイーをいくつか乗り越えてーポイーとコルに出た瞬間目の前に荘厳とコルに出た瞬間目の前に荘厳とコルにおく大小の峰々の連なりがに続く大小の峰々の連なりが「安全な場所まで移動してくだった。身の大陽は尖った四姑娘山六・「安全な場所まで移動してくだった。カメラ、カメ

足元は緩やかな登りとはいえ、と元は緩やかな登りとはいえ、などにあるところ頂である。頂での果てるところ頂である。頂での果てるところ頂である。頂ではガイドの揚さんが手をさし伸はガイドの揚さんが手をさした。感動の提

どれですか?」「この方向なの からなかっった。 連なる遙か彼方、はっきりと分 ですが」と指す方は白き峰々の の声が谺した。 もいない山頂に「バンザーイ」 ください」私達二二名の他は誰 場からビデオ撮影「万歳をして み上げた。Nリーダーは下の岩 と背中を叩かれて熱いものが込 登れて良かった、良かった。」 配させてしまった私はAリーダ 出したり、一番年輩で何かと心 ーと抱き合い「良かったねえ、 頂は歓声と歓喜で熱い!熱を 「ミニヤコンカ

城

山

シリー

ズ

Î

ちは子供に戻った。嬉しそうなりに忍ばせて証とする。再び訪れる事もないであろう頂を後にれる事もないであろう頂を後にれる事もないであろう頂を後にれる事もないである。再び訪

り!」

が美味しく「お代われていてくれた。カツのSリーダーがウドンとソバを顔々々・・・。BCでは留守番頭をなった。

雪渓や大姑娘山目の前に朝日さす四姑娘山の峰尊し指す先は白き連なりまニヤコンカ雲海や日々峰々神御座す雲海や白々峰の神御座す

その雪を散らして

(以下次号)



私の無名山ガイドブックの

飯田勝之

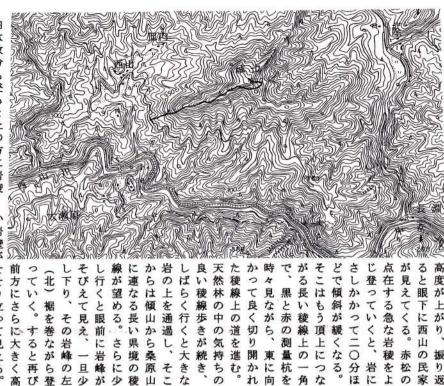
皿内の城山 (宇目町)

途中、傾山の登山口のある御泊古い鉱山の街、木浦に向かう

ことが大事で、見通しの良い林

根したと伝えられる。 ・の分かれ道の北側に聳える、 ・型内域跡のことで、大友宗 ・型内域跡のことで、大友宗 ・型内域跡のことで、大友宗 ・型内域跡のことで、大友宗 ・型内域跡のことで、大友宗 ・型の大正の戦で城陷つ」とあ ・型の大正の戦で域路つ」とあ ・型の大正の戦で域路つ」とあ ・型の大正の戦で域路つ」とあ ・型の大正の戦では ・大友宗

から左上の天然林の中に踏み込 カーブするところで左(東)側 らまっすぐに上に向かって登る ねでよい。踏み込んだところか む。別に目印はないが、おおむ むね一〇〇mほど行ったところ わる。その境目あたりからおお がスギの造林地から自然林に変 る。さらに少し行くと右に緩く る。綺麗な水で飲むことも出来 いくと左方から来た林道と合流 の中の荒れた林道を緩く登って の林内に入る道を進む。スギ林 林の中に入る林道と、水田の脇 ープしながら水平に進む道と、 ろに四叉路がある。U字形にカ 現れる。その水田の終わるとこ 少し行くと舗装が切れ、水田が 便利である。民家の前を過ぎて きがあり、短いザイルがあると る。なおこの山は多少の岩稜歩 あり、これに取りつくことにな 上から西に派生する長い稜線が 登るのだが、地図で見ると、頂 えてくる。その岩峰を目指して 前に岩の多い城山がそびえて見 し、その先で左に小さな沢を見 を登る草つきの道とがあり、中 西山の民家の少し手前で、 眼



林内に点々と並ぶ地籍測量の の裾が見えてくる。 内は数分も登ると上の方に岩稜 つかるもしれないので、 「国調多角」の黒と赤の杭が見 運良ければ それを

がら直登していくと、ぐんぐん をたどって急な斜面を登ってい 切り開きがあり、その切り開き と、測量時に切ったのであろう 天然林から岩稜にさしかかる 木の幹や枝や岩に掴まりな

伝うと良い。

かって良く切り開かれ どで傾斜が緩くなる。 じ登っていくと、岩に 点在する急な岩稜をよ 高度が上がり、 岩の上を通過し、そこ た稜線上の道を進む。 がる長い稜線上の一角 そこはもう頂上につな さしかかって二〇分ほ そびえて見え、一旦少 からは傾山から桑原山 良い稜線歩きが続き、 時々見ながら、東に向 っていく。すると再び し下り、 線が望める。さらに少 に連なる長い県境の稜 しばらく行くと大きな 天然林の中の気持ちの で、黒と赤の測量杭を (北)裾を巻ながら登 行くと眼前に岩峰が その岩峰の左 振り返

ない。 者でなければ取りついてはいけ 岩場の経験があり、自信のある アインディングが難しいので、 あり、木が生えていてルートフ っても良いが、かなりの高さが 山頂はその奥にあるので岩を登 い岩壁がそそり立って見える。

数分もいくと、 を小さくアップダウンしながら 込んで、暗い照葉樹の林の中 岩の基部を右(南)側から回 山の東側から来

ŋ

岩峰の上、東西に長い山頂であ りながら慎重に登る。 内を登っていくと、やがて小さ さらに左方には北川ダムの時間 山、桑原山に至る県境稜線、そ から新百姓山、夏木山、木山内 何者もない静かな山頂で、傾山 あり、それ以外には山頂を示す る。東に少し行くと三等三角が ともうそこは素晴らしい展望の ではないので木の枝や岩に掴ま な岩壁にさしかかる。 少引き返すような方向に急な林 かる。この切り開きに沿って多 た測量のための切り開きが見 深井戸の跡か?ちょっとミステ 深い穴があり、秘密の通路か、 頂の北側は照葉樹に覆われた緩 やまなみが一望の下である。山 戸山からさらに東の県南県境の 橋や『宇目のうた喧嘩大橋』板 下った林内には直径一mほどの める。また、山頂から少し北に も見え、野趣豊かな林内を楽し イリアスである。 斜面で、シカやイノシシの姿 背後に頭だけ見せる大崩山、 登り切る 高い登り

登るときに自分の来たルートを もないところに下りてしまう。 てそれらを伝って下るととんで や切り開きがあるので、間違っ 途中にはいくつか目印のテープ をつける必要がある。 しっかりと憶えておくように気 帰路は往路をそのまま下るが

家のはずれ→一五分→林道から ◇参考コースタイム 西山の民

> らの下り→一○分→岩稜の裾→ 基部→一五分→城山山頂→一○ の取り付き→五分→岩稜の裾→ 分→山頂基部→一〇分→岩稜か 二○分→稜線上→一○分→山頂 二○分→西山の民家のはずれ

◇二万五千分ノ一地図 中津留

山の笹ユリ観賞登山に行く約束 が耳を疑い、呆然自失の有様で をしたばかりなのに、どうして 翌週九日の日曜日に宮崎の大崩 に登って来たとのお電話を頂き した。六月一日に九重の三俣山 この突然の訃報を聞いた時、我 天国に召されてしまいました。 は平成一四年六月五日早朝突然 我等が山の仲間、木本惇さん

たと思います。 れたのに、本人もさぞ残念だっ 山に登れると楽しみにしておら れからは好きな時に好きなだけ る本年六月で退職が決まり、こ 発展に貢献され、六十五歳にな てその豊富な専門知識で銀行の 定年退職後、請われて嘱託とし 木本さんは豊和銀行を六十歳

私と木本さんとのはじめての

岳会は初心者中心の愛好会で、 出会い 多くの初心者の指導に努められ ておられていました。ヒョコ山 はヒヨコ山岳会のリーダーをし 岳会由布岳登山の時でした。彼 この会のモットーである「山の 木本さんは山のベテランとして マナーと安全登山」を実践され は、 十三年 前、 E 3

風俗、観光等を一人でこつこつ 行させて頂きましたが、彼の調 の三山の紹介記事を執筆されま 国東の文殊山、鷲巣岳、尻付 に日本山岳会東九州支部が出版 されてこられました。この四月 行事に積極的に参加され、活躍 国でゆっくり読んでおられるこ 棺に入れましたので、 が、この「大分百山」の本をお たと思います。彼の最愛の奥様 調べておられました。写真撮影 査は綿密で、山麓の集落の歴史、 した。私達山の仲間も調査に同 した「大分百山(改訂版)」に てこられました。 も含めて一○回以上国東に通っ また、日本山岳会の会員とし 東九州支部の月例山行や諸 今ごろ天 Ш

登るようになりました。忘れら 立山縦走登山(白馬~鹿島槍~ 縦走登山(燕~槍~穂高)と後 れないのが、北アルプス面銀座 前からは四国や本州の山々にも 宮崎の山が中心でしたが、 二〇〇以上にもなります。 木本さんと一緒に登った山は のことです。 中でも五 大分

とでしょう。

がら、 で登ってのが昨日のように思い 保と落石に注意」の声を聞きな まし合い、木本さんの「三点確 かない中を、声を掛け合い、励 ら風雨が強く、濃霧で視界が利 竜岳から鹿島槍縦走では、 鹿島槍のキレットを必死

のモットーである「全天候型登これは日本山岳会東九州支部 ところでした。 と、一つ手前の小屋での泊まり おられて、調子の悪い人がいる 同行者の体調には常に注意して 立てられました。彼はスケジュ 山」の実践でもあったと思いま へ変更も躊躇なくされ、その冷 す。この縦走登山も、木本さん 静沈着な判断力は仲間の認める ル時間に厳しい人でしたが、 いつものように周到な計画を

なりません。 うして抜かったのかと、残念で 身の安全確保(健康管理)をど 心掛けておられたのに、自分の このように安全登山をいつも

念でなりません。 家庭も、そして我々山の仲間も、 残念で、淋しいかぎりです。六 り合う事は出来ません。本当に 要としているのに、返す返す残 十四歳の若さ、まだまだ社会も、 馬燈のように浮かんでまいりま の豊富な知識と経験と力を必 が、もう彼とその思いでを語 木本さんとの山の思い出が走

あたたかい友情に御礼申し上げ 今は唯、永年に亘るご指導と

> からお祈り申し上げます。 ると共に、安らかなご冥福を心

0 友 渡 部 昭 Ξ



お 知 5 世

八月月例山行の

月 目的地 日 鷹巣山(元九一一)、 八月三一日 (土) ~ 三陀山(空0. 合) 九月一日 (日)

装備携帯のこと。 槻木付近で野営の予定。四食 日程等 分の食糧とテント等ビバーグ ニー発。現地集合者は野峠十 一時三十分とします。山国町 三十一日午前九時サ

も二日間ご一緒です。 おなじみの重廣恒夫さん

日 案内

九月月例山行の

目 月 1的地 伊美山(四次, 古)、 九月二九日 (日) 黒木山(四九,六四)

> ・日程等 午前五時サニー 温泉の楽しみ) (国見町、三等三角点、 赤根

十月月例出行の

・日程等 午前五時サニー発 ・目的地 (日田市、三等三角点、古い ガラメキ峠を探して) 仏来ノ山(元0. 合) 十月六日 (日)

※全国支部懇談会

年宮島大集会』

っています。詳しくは事務局 へ。申し込み締め切り近し。 場所 月日 参加希望者が多いことを願 広島県宮島 九月二一日 (土) ← 二二日 (日)

版)の販売促進に ※大分百山(改訂

をよろしくお願いします。 割り当てにしていますが、更に 追加して皆さんの積極的な販売 います。会員各自一〇冊を販売 (改訂版)」がまだ大分残って 支部編纂、発行の「大分百山

中高年登山者の遭難が

方は必ず事務局に連絡し長期山行を予定している。会員で 入のうえ、入山するよう て出発して下さい。 登山口での届も必ず記 掛けて下さい、

後

0 趣があると思います。 と晴れた好天が何よりですが、 三日、昨年より二日遅れての り、七月二十一日、平年より 年の梅雨は、後半はたっぷり 雨の中の山歩きもそれなりの 梅雨明けが発表されました。 と雨を降らせたうえに長くな 山登りにはもちろんカラリ カラ梅雨気味に始まった今

0 させてくれると言うものでし や形の木の葉を愛でながらそ 道なら、いっそう風情を感じ まして傘などさして歩ける山 ぞろ歩くのも楽しいものです。 木々の幹の色やいろいろな色 立中を、しっとりと色づいた れるけれど、そぼ降る雨の木 の嵐の雨はいささか興をそが しのつくような雨や横殴り

日本山岳会東九州支部報

木 田

870-0021

TEL-FAX

大分市府内町1

(平成14年)

秀

徳

之

内町1-3-16 ースポーツ内 西

ますが、ある職場(某市役 で販売するように言われてい うです。出来るだけ支部会員 百山(改訂版)」は好評のよ 支部で編纂、発行の「大分

2 0

発行者

編集者

発行所

2年

飯

₹

〇 本格的な夏山のシーズンが やってまいりました。いろん 買ったとか。一足遅れでした。 十人分をまとめて街の書店で の友人に購入を依頼した 職場の登山クラブ会員三

な遠征計画も有ると思いまし どしどし会報にお寄せくださ が、帰ったら是非とも皆さん い。楽しみにしています。 の山行報告や山の便りなど、 (写真も添えて下さい。) K · I

孝子方 097-532-0926

第1

7月25日 (木)

西

8

7